

平成27年度第3回

香美市総合教育会議議事録

日時 平成28年2月24日
午前10時00分 開会
場所 香美市役所3階会議室

1 招集場所 香美市本庁舎 3階 会議室

2 会議の日時 平成28年2月24日(水)
開会：10時00分 閉会：11時51分

3 会議出席者等

(構成員)

市長	法光院	晶一
教育委員長	宮地	憲一
教育委員	浜田	正彦
教育委員	西	美紀
教育委員	竹平	豊久
教育長	時久	恵子

(事務局)

教育次長	小松	美公
総務課長	山崎	泰広
教育振興課長	前田	哲夫
生涯学習振興課長	久保	和昭
教育振興課主監	上村	安和
総務課	池澤	卓也
教育振興課	岩本	岳

(傍聴人)

なし

4 議事

- (1) 平成28年度の重点的取り組みについて
- (2) その他報告等について

5 議事の経過

(開会 午前10時00分)

(山崎総務課長)

定刻が参りましたので、第3回教育総合会議を開催したいと思います。開会に先立ちまして市長にあいさつをお願いします。

(法光院市長)

皆様おはようございます。お忙しい中を第3回の香美市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。また、日頃より香美市の教育のために様々なお力を貸していただいていることをこの場を借りてお礼申し上げます。

本日は、お手元の議題にありますように平成28年度重点課題についてご意見を賜りたく存じますので、よろしくお願いします。

(山崎総務課長)

ありがとうございます。それでは議事に移らせていただきます。平成28年度の重点的取組みについて、事務局の方から幼保、学校、生涯学習の分野で説明をお願いします。まずは幼保からお願いします。

(前田教育振興課長)

幼保支援班から状況を説明します。

平成27年度につきまして、4月から開始された子ども子育て支援制度を初めとする、子ども子育て支援を重点的に取り上げています。

保育所は、7園開所しており、あけぼの保育園は、12時間保育、他は11時間保育を実施しています。発達障害や要保護、要支援児等支援を要する幼児が増え、また重度障害を持つ園児の受け入れも行っています。これら支援を要する園児数にあわせて職員を加配し、発達を促すよう適切なケアを行っていますが、支援を要する児童に見合う、技術職員、保育士の確保は厳しい状況です。

子育てセンターでは、新規事業として、ピアノのリズムに合わせて身体を動かすことにより体の発達を促し、親子でのふれあいを大切にする「親子ふれあいリズム」を月1回開催しました。未就園児を対象にした一時預かり事業を行っていますが、利用できないケースもありました。12月現在では一時預かり件数は97件となっています。健康介護支援課や関係機関と連携して、妊娠期から子育て期までの切れ目ない子育て支援体制を図っています。産後サポート事業を平成28年4月から毎月1回実施しています。

平成28年度については、保育所は、双葉保育園は申込みが3名であったため、保護者会で休園の説明をし、ご理解をいただき、4月より休園となり、6園開園となります。平成28年度から片地保育園での0歳児の受け入れを募集しましたが、申込みが無かったため、開始に至っておりません。保護者が不安にならないように安全、安心の保育をする必要があります。保育事業の質を向上するには保育士の質を上げる必要があります。各研修会において外部への研修に参加して、保育士のスキルを上げていく。また支援を要する園児が増加して

いるところから、保育士の資格がない補助職員に発達障害に係る研修を行います。

子育てセンターでは、子育て講演会や親子ふれあいリズム等の事業を継続的に行います。また保育士や子育て支援員等を募集し一時預かりのお断り件数を減少させる。産後2ヶ月までの親子を対象に専門職による母乳・育児相談や母親の休息の場の提供等を目的とした「ママのサポートルーム」を実施します。また、ファミリーサポートセンター設立に向けて研究・協議し準備を行います。目標としては、ティーチャーズトレーニング、全9回の開催を年2回行い、スキルアップ研修や保育技術研修など部会における外部研修の比率を15%以上にします。一時保育のお断り件数の減少、産後サポート事業「ママのサポートルーム」を多くの人に利用してもらうため広報活動に努めます。

最終目標として、保育の質を維持、向上させながら保護者が安心、安全に預けられるような保育を図るためにも、部会における外部研修の比率を70%、または受講形式を個人単位として全職員が年3回以上外部研修を受講できるようにします。また支援員のうち保育士資格のある者の比率を50%にします。

子育て支援センターでは、保護者の多様なニーズに対応し多くの保護者が利用できるように関係機関と連携し、妊娠期から子育て期までの切れ目ない子育て支援体制が構築されます。

以上が平成35年までの目標です。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。続きまして学校をお願いします。

(上村教育振興課主監)

現状課題は、全国学力状況調査が平成19年から実施されていますが、そちらのデータからも小学校は一定、全国よりも高い水準ということで+1.8~4.7ポイントの状況です。ただ、中学の学力は全国から比べましても-11.4ポイントで、理数系が低い状況になっています。-4.0ポイント、これは国語。比較的全国に近づいている状況ですが、中学校での課題が非常に大きいという結果になっております。

運動能力についてC評価以上と書かれていますが、これはABCDEと5段階になっています。C以上になって欲しいというのがひとつの水準になっておりまして、C以上がどのくらいだということと言いますと、小学校の男子・女子、中学校の男子・女子を載せていますが、これは全国調査の結果ですので、全国小学校は5年生、中学校は2年生を基準として調査をしているものになります。これは全国と比較をしたらどうなのかという事を見ると、今年の小学生は非常に運動能力が高かったです。全国の順位で見ても2番3番くらいの男女ともに高い運動能力です。学校の方でも体幹を高めていくとかいうことを中心にやっている学校があり、体を動かす取組みをしっかりと続けているという学校が増えてきているというところで、香美市も成果が出てきていると感じます。

中学校の男子は、最下位の県よりまだ5ポイントぐらい低いです。運動能力が低いということになっています。女子の方は平均点ぐらいの数値になっています。これも年によって違いますが、中学校に課題があり学力と似た形になっています。

外国語の意識調査ですが、「英語が好き」というところで小学校5年生・6年生の70・

80%くらいから、徐々に下降しはじめ、中学校2年生では50%ということで、好きである子どもの割合は低くなっています。特に数値以上に「分かる」という子どもの数値が上級学年になるほど激しくなっているデータがあります。英検3級を有する中学生が23%、全国の学テの質問調査での肯定的評価の割合は小学校で83%、中学校では62%、全国は示してあるとおりです。

不登校の子ども達が昨年まで少なくなっていました。現在は若干増えてきている状況になっています。平成27年度は集計ができていませんので平成26年度の数値を出しています。

あとコミュニティスクールの施行が現在0校です。

平成28年度については、前進させていこうということで、学力面では、探求的な学習、生活総合を中心とした学習、教科でも、しっかり研究を進めている学校が増えてくると思いますが、実際学んだ知識などをしっかりと生かしていく学習というものが求められていますので、そちらの方に力を入れていきたいと思えます。中学校の学力向上対策は東部教育事務所の協力を得ながら、委員会も積極的に学校に入って、支援をしていきたいと思えます。

外国語教育については、部会を立ち上げて今年研究をしているところですが、具体にはALTも、もっと手厚く補充をしていただければとお願いしているところです。保育、小学、中学としっかりと外国語の力を伸ばすことができる施策を打っていきたいと思えます。

特別支援教育についても、ユニバーサルデザインといわれる事業、全ての子ども達にしっかりと同じ線上で学習していけるということであったり、小中学校をしっかりと繋げていける、段差をなくしていける引継ぎであったり、今まで香美市が大事にしてきたものを充実させていって、一人一人の子ども達の力を伸ばして行きたいと思えます。

連携教育については、保育から大学まである地区ですので連携をしっかりとしていく中では、保・小であれば、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの研究、小・中の先生方の交流、いろいろな場で連携を図っていけるようなものを作って行きたいと思えます。

コミュニティスクールも来年度は国の指定もしっかり受けて、全ての小中学校がコミュニティの研究をします。実際来年からコミュニティスクールとして活動する片地小学校を先頭において、次に大栃というところで進めております。

ICTの教育において、現在、香北中、楠目小、大栃中、舟入小学校の4校でタブレットを導入しています。香長小や片地小など随時、タブレットを導入しながら、今までできなかった授業の中に情報教育の部分をしっかりと入れていながら、学習が組まれるようにしていきたいです。外国語の方でも、他国との交流等もネットを使っていながら、リアルタイムの情報交換ができたらと思えます。

到達目標は、学力は小学校+3ポイント、中学校全国レベル同等にあげたい、体力的にも全国のレベルを超えているところもあるのですが、全体的に上げたいところです。英語についても、肯定的な割合が上級学年になるに従って下がっている課題がありますので、平成28年度は委員会として特に力を入れていこうとするのは、外国語だと思えます。個々の数値もしっかり上がっていくものだと思います。不登校や長欠の児童の数も学校の方でも支援

会などもしっかり行っていきながら、子ども達に対しどのような対応を行っていけばよいか全教員が検証していきたいと思います。

平成35年度は、資料に示してあるようにしっかりとここに向かって進めて行きたいと思います。以上です。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。最後に生涯学習をお願いします。

(久保生涯学習振興課課長)

まず人権についてですが、人権は道徳と違うということで、人権意識が薄い。市人教加入者も、市役所の加入者も6割程度です。人権イベント、文化祭、芸術祭、市民大学等の集客が極めて少ない現状です。

スポーツ班では、各種大会の参加者が減少、固定化しているということが現状です。合併前からの施設の老朽化が進み、今後、その維持管理、新設に多大な費用がかかるのではと思われる。

地域教育班については、地域教育施設間での連携強化を図っていくという取組みがあります。

続きまして、平成28年度の到達目標について、文化班では、人権関連事業、生涯学習推進大会、香美市芸術祭文化展など継続事業のほかに、合併十周年事業の、新規主催事業として、5月29日に「文化の溜まるまち 香美市」と題しまして、講演、ディスカッションを行いたいと考えています。また、香美市音楽祭を秋に実施しようという計画があります。到達目標としては、人権では県人研、全人研、市人研の参加者の増員、各文化サークル、芸術祭実行委員会等の連携、協力による市民満足度を上げることを目標としています。

スポーツ班に関しては、どこの市町村も同じ感じでスポーツ人口等が減っています。そうしたことを踏まえて環境整備を行う。香美市、香南市、南国市、嶺北地域によるエリアネットワークでのスポーツ教室の開催とか、連携など相互のスポーツの振興を図っていこうと思っています。到達目標としては、各種スポーツ人口の掘り起こし、新スポーツの体育協会の加入を目標にしています。念願でありました宝町体育館、宝町グラウンド、宝町テニスコートがすべて今年秋に完成しますので、今後のスポーツ振興を図ることを目標としています。

地域文化班ですが、公民館事業で外国語、特に英語の教育の実施と吉井勇記念館の集客の増員に取り組みます。達成目標については、新図書館、美術館収蔵庫の用地を取得することを当年度の目標と致します。

平成35年度の到達目標についてですが、なにぶん数値化をすることが難しいもので、人権については「差別をなくすまちづくり」をすることと、地域教育につきましても、社会教育というのは自由度が高いということで、市民ニーズに沿った市民満足度が高くなるような事業の実施を目指してまいります。

新図書館を利用した新しい利用方法、サービスを実施しサービスの発信、文化の振興など、文化発信の基地として広げていこうと思っています。以上簡単ですが説明を終わります。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。幼保・学校・生涯学習それぞれの現状と取組みを報告していただきましたが、質問はありませんか。

(法光院市長)

幼保の現状と課題について、双葉保育園の休園の話がありました。最近の大事な動きだと思いますが、このことについては、きちんとした状況の確認をしておかないといけないと思います。保育の信頼性や方向など、しっかりとしたものにしていかなければならないので、目標の中に入れていかないとだめだと思いますので、しっかりやってほしいと思います。

(前田教育振興課長)

双葉保育園についてですが、現在12名の保育園園児がいますが、そのうち7名の方が卒園し、5名の方が入園する予定でした。他にも編入予定の園児がいましたが、徐々に減っていき、転入者の方もお断りし、美良布保育園の方がいいという保護者の意向もあり、現在3名ということになりました。3名では費用対効果や他の保育園の待機児童の部分が心配だという保護者に話をしてご理解を得ました。その中で卒園する1名の方が残してほしいという強い希望がありましたが、他の方の「美良布保育園に転入するのも仕方ない」という意見もあり、保護者の理解も得たということで休園となりました。それについては、自治会長等に話をし、休園ということなので29年度も募集をするという話はしています。募集はするけれども、どのくらいで開園するのか、検討していかなければならないと思います。

(山崎総務課長)

双葉保育園について担当部署からの回答でしたが、ほかに質問はありませんか。

(竹平委員)

人権教育について、生涯学習振興課が行っていますが、ふれあい交流センターも人権教育を実施しています。課題の中に、参加者が少ないということですが、教育委員会は先生方の参加があり多いですが、交流センターは市民が対象でやっているのだから少ないです。参加を多くするために合同で人権教育を開催してみてもどうでしょうか。意見として申し上げたいと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。ご意見をいただきました。幼保から生涯学習まで多岐にわたる項目ですので全部は難しいですので、この部分でというのを取り上げていただいて、それに対する意見交換をしてはと思いますが、どうでしょう。

(浜田委員)

技術職員の確保が難しい状況の中で、例えば、医者であれば奨学金などを出して県などは確保していると思うが、香美市も保育士の確保の部分でそういう考え方はないのかと。この町で育って、保育士の資格を取るために県外の大学、短大に行った方をUターンさせる一つの手段として、奨学金を受けたものはこの町の保育士として勤務しなければいけないので戻ってくるみたいな提案はできないものですか。

(山崎総務課長)

浜田委員からご提案が出ました。幼保の保育士の確保の問題についてですが、これについてのご意見はいかがでしょうか。

(竹平委員)

まったくその通りです。平成28年度の取組みが保育の充実ということだが、具体的には人手不足の中でどうやって充実させるかということ煮詰めていかなければならないと思います。もう一点は、予算付けです。教育委員会の所管業務について、どのように予算立てをして、側面から資金的に支援をして人を育て、人をつくっていくのか。多少見える部分でないと単なる計画の見通しになるのではないかと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。ご意見としていただきました。他はありませんか。

(時久教育長)

確保というより研修の中身ですが、今、臨時の職員等が行ける研修が教育センターの中で用意されています。それに積極的に行けるよう送りだしています。しっかりとした保育に耐える人がたくさんいないといけないということがあって、全体の話も含めて、ぜひ先生の育成に力を入れていきたいと思っていますところでは。

(山崎総務課長)

教育長の力強いご意見をいただきました。他にありませんか。

(宮地委員長)

学校ではあいさつをしてくれるが、保育園ではなかなか挨拶をしてもらえません。そういう部分からもう一度やっていかないといけないと思います。保護者が行っても挨拶ができない、会話ができないのでは研修以前の話です。そこからもう一度、人づくり、育成をしていかなければいけない段階かなと思います。

(山崎総務課長)

本庁も挨拶をしないイメージがあって、課長会でも挨拶を課長から示せという取り組みをしています。大分改善されて最近は少ないですが、お褒めの言葉もいただいています。

(時久教育長)

キャリア教育が3年間研究して、土台ができたというのが今年です。来年度からはキャリア教育の第2ステージとして置いて、やる内容として学力向上、基本的生活習慣の育成、社会性の育成の3つを固めてやっていこうと思います。その中の基本的生活習慣の育成で、保育園からどの年齢もやっていこうというのが「あいさつ」です。香美市中の子ども達、先生方に絶対やらしてもらおうとするものの一つです。

(浜田委員)

事後検証になってしまうのですが、保育所では小学生とは違って、直接親が関わるといふか、園に連れて行かなければならないので、ふれあいができる部分において「若者がすみやすい町」というのが伝わっていきますし、大事な部分だと思います。

(法光院市長)

しっかり予算をつけてくれないとできませんよ、という話がありましたが、平成28年度の予算は来月の2日に議会が開会になりますので、ここに提案をすることになります。予算は、ほぼ昨年度と同額になります。どこも同額かと思われるかもしれませんが、どこも下がっています。上がったのは教育費だけです。おそらく平成28年度中にも補正をやって、さ

らに上げていきます。かつてない教育費が伸びると思います。たまたま重なったのこともありますが、平成27年度から比べると教育費は上がっています。鏡野中の建て替えや、図書館の問題もありますが、何よりも先生方の「やるぞ」ということで、語学や理数の弱いところを頑張るといった具体的な教育内容の充実させるための予算を組み、ほとんど削りませんでした。

(山崎総務課長)

市長より予算の話が出ました、他にご意見はありませんか。

(西委員)

人は人の中で成長しますので、親子関係であったり、学校に行けば先生の関係であったり、いろんなところで学ぶチャンスもあると思います。今、家庭力の低下も言われていますが、小さい頃から、いろんな人とコミュニケーションがとれるように、一番の基礎となる家庭、そういう面からも育てていけるように話しかけもみんなにしていきたいなと思いました。

(山崎総務課長)

幼保からはいつて家庭教育、生涯学習の分野に入ってくると思いますけど、そういった取り組みも平成28年度の中に生かしていければいいかなと思います。時間も少なくなってきましたのでほかにご意見などはありませんか。

無いようですので、3点目のその他の報告についてですが、事務局のほうから何かありませんでしょうか。

(小松教育次長)

平成28年度の教育総合会議について、開催はどのようにしたらよいでしょうか。

(山崎総務課長)

今、事務局のほうから3点目、平成27年度やってきた総合教育会議を、平成28年度はどの程度開いていくかということ平成27年度の状況を勘案しながら決めたらと思いますがどうでしょうか。

(法光院市長)

私は、教育委員会がきちんとあるものですから、それは尊重してやっていかなければいけないと最初に話しをさせていただきました。そのために定期的な会議を持つ必要があると思っていますのですが、緊急性があるものがありますよね。皆でスピード化してやらなければならない、当事者たちが困らない状況をつくらなければならないと思います。この会議の役割を考えると、柔軟性がないといけません。あまり定期的なものにこだわることなく、適宜やるということの一つ入れていただいて、定期の会は良いのではないのでしょうか。教育委員会がありますので、そこで解決しないものについてやると、回数が少なくても良いのではないかと思います。

(小松教育次長)

定例会は一回程度で、その都度、教育委員会から議題にしてもらいたいということがありましたら、随時開催するということがいかがでしょうか。

(山崎総務課長)

事務局より、定例会として1回、教育委員会の求めがありましたら、随時開催するという

ことで構いませんか。

(全員異議なし)

(山崎総務課長)

異議がないようですので、平成28年度は定例の開催時期は事務局で調整をしていただきます。あとは要請に応じて開催したいと思いますので、よろしくお願いします。

(時久教育長)

情報ですが、県の教育委員会が、教育の大綱をつくっています。パブリックコメントが今出ていまして、3月末までに大綱をつくる作業をしているのですが、知事が具体的にできるように、割と細かく方向性を示すだけでなく、具体的になっています。同時進行で教育振興基本計画が来年度から新しく次のバージョンになるということで、その作業も行っていて、これもパブリックコメントが出ていると思います。これも、その大綱を受けてのことで、内容は大綱に似たものとなっており、それに対する振興基本計画も細かくなっています。そういうところを参考にしながら今後を考えていったらと思います。

(山崎総務課長)

教育長より、県の大綱の情報について報告がありました。他に何かありますでしょうか。無いようですので、これで第3回総合教育会議を閉会いたします。

(閉会 午前11時51分)